

第 13 回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

1 日時・会場

平成30年2月7日（水） 10:00～11:30
厚別区役所2階 会議室A

2 出席者（敬称略）

栃尾 美加子（小学校長会厚別支部）
波多野 達郎（厚別区PTA連合会）
松山 瑞穂（厚別中央地区まちづくり会議）
藤島 敬久（厚別南まちづくり会議）
横山 正則（厚別西地区まちづくり会議）
朝日 俊則（青葉地区まちづくり会議）
栗原 佐外夫（厚別東地区まちづくり会議）
西根 由美子（厚別区民生委員児童委員協議会）
山本 康次（札幌市厚別区保護司会）
大川 博（厚別区中学校長会）
田中 昭夫（公益社団法人札幌市子ども会育成連合会）
原田 剛（厚別警察署生活安全課）
神 昭一（厚別警察署少年補導員連絡協議会）
川内 孝二（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
河西 敬志（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
阿部 武仁 厚別区市民部長
國島 徹 厚別区市民部総務企画課長
櫛引 重一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

3 会議内容

【1】連絡事項

- 今回の会議には児童会館にご参加いただく予定であったが、厚別区内の児童会館の代表である厚別東児童会館の館長から急遽都合がつかなくなったとの連絡があったので、残念ながら本日は欠席となる。

【2】意見交換

- 防犯と交通安全の連携についてご説明する。厚別区役所地域安全担当係では、各小学校が児童の交通事故防止を最重点に、学校、地域、関係する団体や機関が、登下校時の見守りを中心とした通学安全の取組みを行っている「スクールゾーン実行委員会」に出席させていただいているところ。会議のなかでは「子どもが安全に登下校できることが学校と地域の願いだが、地域の目の行き届かないところや時間帯がある。」「車両や不審者に対して、地域が見守っていることを見せることが大切なのに、活動者が少ない中で見守り体制が行き届かない。」「子どもの見守りを縦割りで行っているだけでは対応できない。」などの意見が出ている。

どのようにしたら、子どもたちの安全と安心を確保し、守っていけるのかが、学校と地域にとっての切実な課題となっており、地域によっては、「見守りの目」をつくっていくことが必要との意識のもと、交通事故から子どもたちを守る交通安全活動と、不審者から子どもたちを守る防犯活動とが一体となって取り組もうという意見と動きが、少しずつ広がってきている。

そのためには、「子どもの安全・安心」や「見守り」を共通のテーマとして、学校、地域、関係する団体や機関が、課題や問題点、対策についての情報を共有しあうことを通じて、それぞれの役割を理解しあい、日ごろから相互に連携して活動することが出来れば、より一層の強化を図ることが可能になるものと考えている。

過去の当ネットワーク会議においても、厚別西まちづくり会議の押田氏が、西地区では防犯と交通安全は一緒に活動していると報告されていた経緯もある。

ついては、地域における防犯と交通安全の連携について、各団体のみなさんのご意見を伺いたいと思う。また、各団体において防犯と交通安全の連携事例があればご報告いただきたいと思います。

- 当地区では月に2回防犯パトロールを行っているが、特に問題は起きていない。各単位町内会でも独自の防犯活動を行っているようである。
- 青葉小学校では、交通安全の会議である「スクールゾーン実行委員会」と防犯の会議である「青葉小学校の子どもを見守る会」が同日に行われ、出席者はほぼ全員同じ人である。このように、同じ人が交通安全と防犯を兼務している方が効率的ではないかと思う。
- 過去にも紹介したことがあるが、子どもの見守りは子どもと地域に住んでいる人の顔合わせが重要であるので、この人はこの辺に住んでいると子どもにわかってもらえれば自然とあいさつもするようになるので、みんな無理のない範囲で活動できればと思う。例えば、ゴミ出しは住民であれば必ず行うので、それを登校時間に合せて「おはよう」と声掛けをすることを5年くらい前から町内で徹底するようにしている。また、同じように自分の散歩や犬の散歩を下校時に行うようにしている。
- 町内会の取組の1つ目は、小野幌小学校で1年生の下校時に町内会が毎週火曜日、老人クラブが毎週金曜日防犯パトロールを行っている。2つ目は、町内会で「花いっぱい運動」を小学生と一緒にっており、毎年6月に幹線道路の街路樹に1,500株の花を植えている。3つ目は小学校の夏休み期間に公園でラジオ体操をしており、150人

くらい参加している。4つ目は毎年8月初旬に夏まつりを行っており、子どもを含め4～500人くらい参加している。

- 当地区の森林公園町内会は世帯数が多く、子どもの多い区域と高齢者の多い区域とで偏りがある。防犯の取組としてはスクールガード15名が月2回金曜日下校時の見守りを行っている。その時に不審者や危険個所の情報があれば町内会で共有している。並行して、青パトも5台で月2回町内を回っている。交通安全との連携では、月2回の交通安全街頭啓発をスクールガードと一緒にやっている。また、ベストや防寒着にネームを入れて普段街中を歩いたり除雪をしているので、不審者への抑止になっていると考えている。
- 町内会の見守り活動を行っている人や青パトやスクールガードの高齢化が進んでおり、新たな担い手が不足している。その背景には共働き世帯と核家族の増加があり、そういう方たちは見守り活動を行う余裕が無いらしく感じている。
- 当会議においては良い面ではなく、問題点に着目して解決方法について意見を出し合えばいいのかと思う。例えば、交通安全活動や防犯活動を行う場合、人手が不足してくると同じ人ばかりに役割が集約される傾向になる。だが、組織としては非常に細かく枝分かれしており、交通安全という分野でも似たような組織が3つ4つあり、当会議以外にも別なところで同じような会議が行われ、人手不足の中でいろいろな会議に繰り返し出席して同じ話をするのが非常に多い。交通安全や防犯対策が後手に回るのは良くないので、実態に沿って問題解決方法に着目し、建設的な話になればいいと思う。交通安全活動と防犯活動をきちんと行っている地域と行っていない地域があり、行っていない地域をどうしたらいいかということを広く底上げできたらいいと思う。
- 子ども会では日頃の活動の中で「KY(危険予知)活動」があり、必ずその日活動が始まる前にここが危険なので注意しましょうと周知することにしている。
- この1年間では不審者が集中して出没する時期があった。具体的には学校祭の9月から10月頃にもみじ台と上野幌である。こういったことは必ず各中学校、小学校、まちづくりセンターで情報共有している。

中学校では小学校も含めて交通安全等の朝の見守り活動を行っているが、中学校の場合は部活動があり、朝練習の生徒は7時くらいから、夕練習の生徒は6時30分くらいまで行っている。その時間帯に合わせての見守りが難しい。それでも見守りを行っていた例としては、職員が部活動の終わった時刻に校区内を車で回るということをしていた。警察に話を聞くと不審者は夏や秋に限らず冬も多く出没するとのことなので、地域との連携をどのようにすればいいのか悩んでいる。下校時に職員を大勢見守りに行かせると職員室が空になるので、地域とどのように連携するかが課題となっている。

- 北広島市を含めた厚別警察署管内の昨年の不審者発生件数は200件弱で一昨年と同じ。厚別区内のみだと140件ほどで、声掛けなどの犯罪になる一歩手前の行為で、捕まえても事件として処理できない不審者の件数である。この200件弱の内、50件ほどは誰がやったか特定しているが、警告や親を呼んで注意するなどして、検挙はできていない。また、迷惑防止条例違反は昨年は18件犯罪として受理して、その内9件は

犯人がわかり、さらにその内6件は検挙し、残り3件は証拠がないなどの理由で立件できなかった。強制猥褻は9件ほど発生している。

- 客観的に見て、防犯や交通安全については縦割りで同じ人ばかりが活動している。その中で派閥のようなものが根深くあり、外から来た人が受け入れられにくい土壌がある。若い世代でも余っている時間で活躍したい人がいるはずだが、そういう土壌なので思っていることを発言できないでいる。

みなさん普段町内会や諸活動の中で、いろいろな情報をもって行動しているのはよいことだと思うが、区役所の地下に更正保護サポートセンターがあるので、我々も町内会を通じて情報を流したいので、何かあったらサポートセンターに意見や相談をしてもらえそうな体制を確立させたいと思っている。

- 民生委員の80%は高齢者であるので、当協議会も機会があれば防犯の会合などにも参加するようにしているが、ほとんど主任児童委員に任せきりである。
- 防犯カメラを町内会単位で設置を広げられることはできないかと北海道警察から当社が相談を受けており、当社も何かできないかと検討しているところである。地域で課題があれば地域と一緒に取り組んでいくということを当社は基本スタンスとしているので、何かあったら声掛けしていただけるとありがたい。
- 当町内会では地域の人との関わりがほとんどなく、誰がどこに住んでいるかという会員名簿が今まで整備されていなかった。この度ある程度整備したが、個人情報であるため批判的な意見もある。このため近所が疑心暗鬼になっているようなので、どこまで見守りの理解が進められるのかというのが悩ましいところである。よって、当町内会がまず行わなければならないのは融和である。そこで、親睦会などのいろいろな行事を企画しているものの、参加率は低い。先日自治連合会主催で雪中運動会が開催されたが、子どもの参加は少なかった。情報の伝達が悪いのが原因かと思うが、ある人から何をやっているか町内にわかるように周知すべきだと言われ、「町内会だより」を作成している。当町内会では見守り活動以前にもっと基本的なところから始めなければならないと思っている。
- 資料2をご覧ください。子ども110番の家については前回の会議でご説明したが、その後追加の申込みがあった。この事業は無理のない範囲で取り組めると思うので、是非また検討していただければと思う。
- 担い手が不足しているという意味を紐解いていくと、同じ問題を共有している人があまりいないということがわかる。逆に、町内会やPTAなどの同じ立場で同じことをしたことがある人同士であれば問題意識を認知する。どういうことかということ、以前PTAの研修で福岡市に行ったことがあるが、福岡市の事例でいうと、住みたい街で常に上位にランクインしており、若者が流入して定着している。逆に札幌は道内からの流入はあるが進学・就職となると流出している。ではなぜ福岡市には西日本各地から子育て世代が流入しているかというと、札幌市との明らかな違いは、PTA活動を少しでもすると町内会から目をつけられるということである。また、札幌では小学校で活動しているおやじの会が、福岡市では中学校でもちつき大会やボランティアを行うなど、小学校のみ

ならず中学校とも関わりをもっている。そのままおやじの会などのPTAが町内会にも関わって、その町内会で子育てをした結果子ども達が大きくなってPTA活動をするという循環がおきている。

私は子どもの見守りで7～8年街頭に立っていたので、子どもに認知されているだろうという理由で周りからPTA会長をやってくれと頼まれた。そのとき私は自治会長も兼任しており、自治会長という立場で自治会内のPTAに対し「そろそろ自治会のことでも手伝ってください」と頼むと一人二人は手伝ってくれる。結果、自治会の手伝うPTAが増え、若返りが進む。

PTAが子育てをして学校に関わり、学校が町内会に関わるというように、PTAが町内会と何らかの連携をとるスタイルが成立していると、町内会側から自然とPTAや学校に手を差し伸べるようになる。そうして自然と同じ問題を共有するようになると、防犯と交通安全のリスクマネジメントも同じであるという意識がでてくる。子どもや高齢者などの弱者を見守る立場の人の母数が増えるほど、同じような見方になってくる。

私の自治会では小中学校の子どもを持つ親が自治会活動に携わってくれたので、子どもの話題も増えて、防犯と交通安全のリスクマネジメントは同じであるという意見も自然発生的に出てくる中で、近所の町内会だと親が車で学校に送迎する事例が増えている。どういうことかということ、凶悪犯罪が相対的に減っているご時世であっても、安全だからといって安心できないからである。ここ十年くらいで学校への送迎は増えているが、PTAや町内会がこれだけ普段から見守り活動をしているという安心感が共有できていれば、車で送迎ということにならないと思う。子どもを毎日送迎する時間があるのであれば、その分街頭に立つだけでいいという安心感の共有ができれば町は繋がっていく。PTAと町内会は一蓮托生であるということを知っていただきたい。

- 東京都小平市の例をお話すると、子どもたちが七夕やハロウィンなどの行事を行う時、町内会がお金を出している。そういったことを我々も学んで札幌に持ち帰ったときに、町内会で開催するサロンに子どもを参加させようかという話しになり、老人クラブともその話題になると、子ども達が帰ってきてから少し顔を出せるように平日サロンをする場合は時間を長くすればいいという話しがでた。いろいろ情報を集める中で、そういう話しをいろいろなところですると、だんだんアイデアが出てくる。

【2】次年度の事業計画について

- 資料3について説明する。基本的な事業計画は今年度(平成29年度)と同じ。今年度中に、防犯ネットワーク通信6号を発行して、区内の町内会に回覧する予定。防犯教室については今年度は4校で実施し、児童1800人弱が参加し大変好評であった。当ネットワーク会議での方向性としては、今後も、毎年2～4校程度での開催を継続し、5年程度で厚別区内の全小学校で開催するということであるので、特段の不都合がなければ、来年度も現行の方式で継続したいと考えているがいかがか。

～一同承認～

来年度の実施時期と講師については、今年度と同じく6月下旬に、うさぎママのパトロール教室の武田先生にお願いしたいと考えている。事前調整のため4月早々には開催内容を決定する必要があるため、栃尾代表と事務局とで調整のうえ開催に向けた準備を進めたいと考えている。来年度も、地域の参加を積極的に進める方向で開催校と調整を行っていききたい。

来年度の第1回目の防犯ネットワーク会議は、今年度同様に防犯教室が終わった後の7月に開催する予定。第2回目は、年明け1～2月に開催の予定。厚別区役所で実施する「地域安全マップ」と「防犯パネル展」も例年どおり開催の予定。地域安全マップについては、1月19日の小学校校長会で新たに組み込んでいただけるよう改めて紹介させていただいたところである。

- 小学校校長会で子ども地域安全マップの説明をした時の反応はどうだったか。
- 具体的にどこかの小学校が組みたいという話は出なかったが、主旨については理解していただいたものと思う。
- 校長会では各校に持ち帰って検討していただくこととしている。ただ、平成32年度に教育課程の大きな改定があり、それまでの2年間は移行期で3年生から外国語活動も加わるなど学習内容が変わる年でもあるため、各校新たな授業を組み込むことが難しいのかと思われる。ただ、既存の学習の中に組み込むことは可能かと思われるので、検討していただけるかと思う。
- 続いて札幌市が予定している防犯カメラの設置補助について説明する。本件について、防犯カメラを活用した防犯施策の一環として、防犯カメラを町内会・自治会が公共空間に設置する際の費用を補助する制度が平成30年度から始まる。補助対象は、附属機器を含むカメラ本体、取付費用等で、電気代、修理費等の維持費は除く。実施期間は、平成30年度から32年度の3か年。補助限度額は1台あたり16万円で、補助率は10割となっている。平成30年度は、全市で280台分の補助を予定しているが、制度の周知、補助申請の受付等については、新年度に入ってから発表がある予定。

(文責：厚別区市民部総務企画課地域安全担当係)